

〔派遣〕

派遣研究者 京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻 博士後期課程3年 北原 哲朗 1062002
研究集会名 2006 IEEE International Conference on Acoustics, Speech and Signal Processing
(ICASSP)

出張期間 平成18年5月13日 ～ 25日

開催場所 フランス国 ツールーズ市

発表論文 発音時刻検出と音高推定の不要な楽器音認識技術

(A Music instrument Recognition Technique Without Using Onset Detection and F0 Estimation)

概 要

ICASSPは、IEEE主催の音響信号処理分野における最大規模かつ最難関の国際会議であり、世界中の音響信号処理研究者が一堂に会する。音声情報処理のみ、あるいは音楽情報処理のみに特化した会議とは異なり、様々なバックグラウンドを持つ研究者から意見をもらうことができるという点では、非常に重要かつ有意義な会議である。本年のICASSPは、オーラル6会場、ポスター8会場の平行進行となっており、1460件の発表があった。(投稿総数3040件、採択率48%)

私は、ポスターセッション「Application to Music」にて、我々の楽器音認識研究の最新成果を発表した。発表の内容は、楽器音認識を「時間周波数平面における楽器存在確率の計算」と捉え、この計算を発音時刻や基本周波数を推定することなく行う斬新な考案方法についてである。発表を行った当セッションは、絶え間なく人が来て、ポスターを読んだり議論をしたりで大変盛況であり、我々の研究成果に関しては、多くの研究者から面白いとの評価をいただいた。楽器音認識の新たなアプローチ法として認知性が高まっていくことを期待している。

今回このような重要な会議に参加して、我々の研究にとっても大変意義深い研究やアイデアにも触れることができ、さらなる研究開発のヒントとなりうる情報を多く得られたことは大きな収穫であった。